

論 文 審 査 の 要 旨

筆頭著者（学位申請者）氏名

田邊 康宏

主論文の題目

および

掲載誌・審査委員

題 目 Effects of Early Intensive Statin Therapy on Endothelial Function in Patients with ST-segment Elevation Acute Myocardial Infarction
- A Pilot Study -.

(ST 上昇型急性心筋梗塞患者に対する早期スタチン強化療法の血管内皮機能への効果～パイロット研究～)

掲載誌 Japanese Journal of Clinical Physiology (2015;45:151-158)

主査 宮入 剛

副査 信岡 祐彦

副査 松本 直樹

[論文の要旨・価値]

[目的]急性冠症候群において発症早期からの強化スタチン療法は心血管イベントを抑制することが報告されているが、その機序は明らかではない。また、急性冠症候群では、急性期の血管内皮機能は慢性期と比較して低下していることは報告されているが、発症早期の血管内皮機能の推移について報告した研究は認められない。申請者らは、ST 上昇型急性心筋梗塞患者の発症早期の血管内皮機能の推移と、スタチン用量が内皮機能に及ぼす影響を評価した。

[方法]2012 年 8 月から 2013 年 12 月までに東京都立広尾病院に ST 上昇型急性心筋梗塞のために入院した 22 例の患者を対象とした。カテーテルによる再灌流後に、無作為に Loading (+) 群 (N=11) ; ロスバスタチン 10mg 服用後に 5mg/日投与と、Loading (-) 群 (N=11) ; ロスバスタチン 2.5mg/日投与群に割り当てた。血管内皮機能は RH-PAT (reactive hyperemia peripheral arterial tonometry) を用いて、急性期（発症から 1-2 日）と亜急性期（発症から 7-14 日）に RHI (reactive hyperemia peripheral arterial tonometry index) を計測した。

[結果] ①急性期の内皮機能の推移：全 22 症例を対象とした解析では、急性期の RHI は 1.61 ± 0.51 と低下していたが、亜急性期には 2.03 ± 0.53 と有意に改善した ($p=0.008$)。

②Loading (+) 群と Loading (-) 群の比較：Loading (+) 群では全例において急性期と比較して亜急性期の血管内皮機能は改善し、RHI は急性期 1.52 ± 0.37 から亜急性期 2.01 ± 0.47 と有意に増加していた ($p=0.007$)。一方、Loading (-) 群では 8 例で改善を示したが 3 例では増悪しており、RHI は急性期 1.70 ± 0.62 から亜急性期 2.06 ± 0.60 と有意な改善を示さなかった ($p=0.21$)。

[結論] ST 上昇型急性心筋梗塞患者において発症早期からのスタチン高用量投与が急性期の血管内皮機能を改善する可能性がある。

以上、本論文は ST 上昇型急性心筋梗塞患者における発症早期からのスタチン高用量投与が血管内皮機能を改善する効果を明らかにし、臨床的に価値の高い論文であり、学位授与に値すると考えられた。

[審査概要] 審査は主査 1 名、副査 2 名、陪席者 1 名で実施された。PC を用いた約 20 分のプレゼンテーションとそれに続く約 40 分の質疑応答が行われた。プレゼンテーションでは、研究の背景と目的、方法、結果と考察、結論と臨床的価値について明確に述べた。質疑応答では、①RH-PAT と他の血管内皮機能測定法との比較、②血管内皮機能が改善または増悪する患者の特徴、③冠動脈内皮機能と末梢動脈内皮機能との関係、④血管内皮機能と予後との関係、などについて質問がなされたが、おおむね的確な回答が得られた。

最 終 試 験 結 果 の 要 旨

[研究能力・専門的学識・外国語（英語）試験等の評価] 研究内容の発表とその質疑応答を通して、学位申請者の研究推進能力、専門的知識、研究意欲などについて問題がないものと判断した。また、英語能力は参考文献の一部を和訳することで評価し、十分な読解力があるものと判断した。発表態度は真摯であり、今後の研究の発展に対する意欲も十分に感じられ、学位授与に値すると考えられた。